

政治・経済定点観測レポート

## ウズベキスタン NOW

【第 38 号:2015 年 9 月－10 月期】

- \* 本レポートは ROTOBO の協力者である現地専門家の執筆によるものです。内容は執筆者の個人的見解であり、ROTOBO の組織的見解とはいかなる意味でも関係ありません。内容の無断転載、引用は堅くお断りします。

### 経済概況

#### 2015 年 1～9 月期のウズベキスタンの GDP 成長率は 8 %

同数値は、ウズベキスタンの社会経済発展の実績を分析するために開かれた 2015 年 10 月 19 日の閣議の席で公表されたもの。中でも成長率が高かった分野は、消費財製造業 10.1%、小売業 15%およびサービス業 12.9%であった。農業生産分野の生産高伸び率は 6.6%であった。政府の報告によれば、国家予算遂行の結果財政黒字が確保され、インフレ率は予想の範囲に収まっている。2015 年期末の経済成長率も同じく 8%程度になると予想されている。

2016 年の GDP 成長率は 7.8%程度と予想されている。2016 年国家予算案では、2016 年は鉱工業製品が 8.2%増、農産物が 6.1%増、設備投資額が 9.6%増と見込まれた数値が盛り込まれている。

2016 年の国家予算では、歳入が 40 兆 5,000 億スム、歳出が 42 兆 7,000 億スム、財政赤字が 2 兆 2,000 億スム、すなわち GDP の 1%と見込まれている。各種の国家特別基金の 2016 年予算の歳入・歳出額は 23 兆 4,000 億スムと決められている。また、社会保障経費の割合が最大 59.2%増加すると見込まれている。教育・保健分野に振り向けられる資金額はそれぞれ GDP の 6.8%および 2.8%となる。

経済部門に対する税負担率は昨年の 20.7%から 19.1%に引き下げることになっている。特に、サービス提供分野の中小企業については統一支払税を 6%から 5%に引き下げる予定となっている。

#### IMF の予測によれば、ウズベキスタンの GDP 成長率は 2016 年 7%、2017 年 6.7%

IMF はまた、2018 年～2020 年のウズベキスタンの経済成長率についても年率 6.5%まで鈍化すると予測している。インフレ率は、2016 年が 9.5%、2017 年は 10%、2018～2020 年は年率 10%との予測。2015 年のインフレ率は 9～9.5%程度になると予想されている。

IMF 専門家の予測によれば、ウズベキスタン公的外貨準備高は 2014 年の 241 億 4,900 万ドル（輸入額 16.9 カ月分に相当）から 2020 年には 381 億 3,100 万ドル（輸入額 19.7

か月分に相当) に増加、2015 年期末のウズベキスタンの公的外貨準備高は、244 億 3,600 万ドル (輸入額 17.1 か月分に相当) を上回る。ウズベキスタンの国家債務は、2014 年に GDP の 8.5%であったのに対して、2015 年期末には 11.6%となる。2016 年も同様に増加し最大で GDP の 15.9%になると予想されている。

IMF 専門家の見解によると、ユーロ圏とロシアで経済活動が停滞しエネルギー資源価格が低下するなど、対外経済関係が困難な状況にある中で、ウズベキスタン経済は全体として安定的に推移している。これはウズベキスタン経済に投資を呼び込もうとする政府の積極的な努力の賜物である。2016 年と 2017 年、ウズベキスタン経済は引き続き主要な輸出商品の価格の不安定、隣接する各国の経済成長率の鈍化といった圧力にさらされる。IMF は、今後のウズベキスタン経済にとってインフレは重大なチャレンジのひとつであると見ている。

### **ウズベキスタンの成長率が 2015 年に GDP の 7%、2016 年に 7.2%程度という予測をアジア開発銀行 (ADB) が維持**

ADB は、経済成長率鈍化の主な原因を、原料物資 (天然ガス、金、銅、綿花その他) の価格低下とウズベキスタンの主要な貿易相手国の経済の減速であると見ている。

世界銀行の専門家は、ウズベキスタンの GDP 成長率を、2016 年 7.5%、2017 年が 7.7%と見ている。

世界銀行も、ウズベキスタンの成長率減速の要因は、主要貿易相手国 (ロシア、中国、カザフスタン、韓国) の経済の不振と、ウズベキスタンの主要輸出商品の価格低下と見ている。同行専門家の見立てでは、2015 年はウズベキスタンの輸出は 6.7%減少、(海外からの) 送金額は、55%減少する。しかし、早くも 2016 年には輸出は 3.1%の増加に転じ、2016 年も 8.9%増加するとの予測である。

世界銀行とその他の国際金融機関は、ウズベキスタンでは同国経済への民間投資を増やすための改革、すなわちビジネス環境の改善、経済部門の税負担の最適化、経済部門における労働生産性の向上に向けた刺激策をより積極的に実施する必要があると見ている。

### **投資・金融セクター**

#### **世界銀行が 2016~2020 年期のウズベキスタン向け資金供与額を 35~40 億ドルまで引き上げる意向**

2012~2015 年期、世界銀行は 12 のプロジェクトに総額 15 億ドルを上回る資金を融資した。融資分野は、農業、水資源、給水設備、電力産業、輸送、保健・教育、エネルギー効率向上、公共サービスの提供状況・利用しやすさおよび質の改善である。現在、世

世界銀行グループは、ウズベキスタンで 15 のプロジェクトを実施中であり、その総額は 19 億 7,000 万ドルになる。

2016～2020 年期中におけるウズベキスタンと世界銀行との協力では、主に次の分野が優先される。インフラサービス（給水設備、電力供給設備、輸送）、社会サービス（教育・保健）、農業の競争力（水利用の合理化およびより高価格な作物への移行）、経済部門への民間投資資金流入の促進（規制改革、民営化および国有企業におけるコーポレートガバナンスの強化）、雇用創出。現在、協力のコンセプトとプログラムの作成が進められており、作業が完了するのは 2015 年末の予定である。

### **世界銀行のビジネスのしやすさランキングでウズベキスタンが 103 位から 87 位へ順位を上げる**

報告書「ビジネス環境の現状 2016：規制の質と効率の評価」が 2015 年 10 月 27 日に発表された。ウズベキスタンは 2014～2015 年期中にビジネスのしやすさ指標の改善が大きく進んだ上位 10 カ国にランクインした。

ウズベキスタンで最も顕著な改善が見られたのは資金調達の分野で、105 位から 42 位順位を上げて 63 位となった。そのほかランキングが上がった分野は、不動産登記（113 位から 26 位上がって 87 位へ）、事業立ち上げ（64 位から 22 位上がって 42 位へ）、課税（117 位から 2 位上がって 115 位へ）であった。

次の指標ではランキングが低下した。電力事情（4 位順位を落として世界 112 位）、建築許可（2 位順位を落として 151 位）、少数株主の保護（1 位順位を落として 88 位）および貿易のしやすさ（1 位順位を落として 159 位）。順位が変動しなかった指標は契約執行（32 位）および破綻処理（75 位）であった。

### **エネルギー・セクター**

#### **ウズベクエネルギーが 2016～2022 年期中に総額 56 億 4,000 万ドルを投じて新たな電力産業発展プロジェクトを実施する意向**

現在、一連のプロジェクトの立案が進められている。投資総額のうち 31 億 4,000 万ドルを外国からの投資と融資、14 億ドルを自己資金、11 億ドルをウズベキスタン復興開発基金の融資とする予定である。

3,820MW の発電設備を新規に建設または近代化することが見込まれており、そのうち火力が 3,700MW、水力が 22.5MW、太陽エネルギーが 200MW となる。計画にはまた、総延長距離 795km に及ぶ 220～500kV 送電線の敷設、送電設備・電力消費積算システム近代化の両プロジェクトも含まれている。

## **スルギル鉱床をベースにしたウスチュルトガス化学コンビナート (GKhK) 建設工事が完工**

同プロジェクトは、韓国の Lotte Chemical 社およびその他のパートナーと共同で実施された。建設は 2012 年に着工され、工費は約 38 億 9,000 万ドルとなった。工場は、2016 年 1 月より稼働予定である。製品は、欧州、中央アジア、ロシアおよび北アフリカの各国に輸出される予定である。GKhK は一日あたり、天然ガス 45 億 m<sup>3</sup> を処理して最大で商業ガス 40 億 m<sup>3</sup>、各種密度のポリエチレン 40 万 t、ポリプロピレン 10 万 t、分解ガソリン約 10 万 t を生産する。

ウズベキスタンは、「2030 年までのウズベキスタン共和国低酸素推進戦略」の枠内で再生可能エネルギーを利用することにより、電力設備容量を 3.44GW 引き上げることが可能である。

とりわけ、2030 年までに総設備容量 2 GW の太陽光発電所を導入することにより、50 億 kW/h の発電容量を手に入れることができる。水力発電の設備容量は 938MW 引き上げることが可能であり、これによって新たに 26 億 kW/h の電力を産出することができる。バイオガス発電を導入する潜在能力は 465MW と評価されており、これにより 37 億 kW/h の発電量を確保することが可能になる。風力発電設備の容量は 40MW となり、これによって 8,000 万 kW/h の電力の発電が可能となる。ウズベキスタン国内では、現在、太陽光発電、風力発電、水力発電分野で一連のプロジェクトが実施されている。

### **自動車セクター**

#### **自動車工業分野で合併企業が新たに誕生**

合併企業である有限会社 UZAUTO-INZI は、年間 2,400 t を上回るアルミニウムインゴットを生産し、自動車、エンジン、発電機用に 43 品目のアルミニウム部品を製造する予定である。合併設立に際して、ウズアフトサノアト株式会社のパートナーとなったのは、韓国の INZI AMT Co., Ltd 社である。定款資本金は 1,000 万ドルで株式持ち分はウズアフトサノアトと INZI AMT Co., Ltd の間で均等に配分された。生産開始は 2017 年 1 月 1 日を予定している。

### **その他のセクター**

#### **英豪系会社リオ・ティントがウズベキスタン・ナマンガン州の有望鉱区「ガヴァ」で第 2 段階の探鉱作業を完了**

予定では、2015 年末に明らかになるとされている探鉱結果の分析を見て、リオ・ティントはウズベキスタンで今後どのような作業をするのか決定を下すことにしている。

実施期間を 2013 年から 2015 年までと定めてスタートしたリオ・ティントの探鉱 3 年計画には、見積りで 300 万ドルが投入された。リオ・ティントの幹部は先に、良好な

結果が出た場合、同社はウズベキスタンにおける銅の探鉱作業に最大 1 億ドルを投資することが可能であると表明している。

ウズベキスタンで唯一の銅生産企業であるアルマリク鉱山製錬コンビナートは総埋蔵量約 1,700 万 t の銅鉱床を開発しており、このうち採掘が済んだのは約 20%に過ぎない。

### **ウズベキスタン韓国合弁企業 LG CNS Uzbekistan がウズベキスタンで事業を開始**

新設されたこの合弁企業の主な事業分野は、ソフトウェア製品の開発、ハードウェア-ソフトウェア統合製品の設置・導入、さらに「電子政府」システムおよび実体経済部門の企業向けの設計・技術文書の作成である。同社はすでに、一連の「電子政府」システム大型プロジェクトの実施に着手している。これらのプロジェクトは、最新の情報システムとデータベースおよび双方方向国家サービスを各国家機関に導入するためのインフラを構築する使命を帯びたものである。LG CNS 社は 1987 年に設立され、IT 分野でサービスを提供する韓国最大手企業の一角を占めている。同社は、IT 分野で事業を展開し、コンサルティング、システムインテグレーション、ネットワークインテグレーション、ビジネスプロセス・アウトソーシングおよび IT の専業である。

### **2020 年までに食品輸出を倍増させる計画**

一方、食料輸入は 80%削減する予定である。2016~2020 年に 300 の大型投資プロジェクトを実施する予定で、その総額は 4 億 1,000 万ドルに及ぶ。これに加え、各種の地域発展プログラムの枠内でさらに 5,000 の小型新規事業を実施することになっており、その総費用は 5 億ドルとなる。ウズベキスタンでは、現在 1 万社を超える企業が食品生産を専業としており、うち約 40%が小企業である。食品分野が工業生産に占める割合は約 17%である。

食料生産で枢要な位置を占めるのは青果物である。2015 年期には青果物の生産高が 1,800 万 t 程度になると予想されており、そのうち総生産高に占める割合は、野菜が 53%、果物 15%、ジャガイモ 14%、ウリ類 10%、ブドウ 8%になるとの予想である。2014 年の青果物の総収量は約 1,750 万 t となり、2013 年比 9.2%の増加であった。

青果物の約 80%は生鮮品として国内で消費され、残りは加工（14%）に回され、輸出（3%）や採種（3%）に向けられている。

近年、青果物の輸出は 13~15 億ドル（全輸出の 9~10%）のレベルで推移しており、輸出先は世界 40 カ国の市場に及ぶ。輸出高で上位を占めるのは次の品目である。ブドウ、メロン、トマト、ザクロ、葉物野菜、キャベツ、アズキ、インゲン、モモ、オウトウ、キュウリ、エンドウ、干しブドウ、クルミ。生鮮品が青果物に占める割合は 74%超、マメ類は 13%、ドライフルーツは 12%である。

## ウズベキスタンが綿花・繊維製品生産分野の改革で第2段階に突入

原綿の検収・加工業務、綿花の保管・輸出、綿実油の生産を手掛ける各企業を傘下に置く持株会社「ウズパフタサノアトエクスポート」が設立される予定である。同社の優先事業のひとつは、ウズベキスタンの綿繰り工場と油脂加工工場の近代化、設備更新、生産技術更新に向け外国資本を含む投資の幅広い誘致である。

現在、綿花の 35～40%が国内で加工されているが、加工比率は 5 年前に比べて倍増している。計画では、2020 年までに同比率を 60%まで引き上げることになっている。今シーズンのウズベキスタン綿花の主な買手国はバングラディッシュ、中国、韓国、イランである。この結果、バングラディッシュは今日、綿花の全輸入量の約 30%をウズベキスタンで買い付けている。世界の綿花輸出に占めるウズベキスタンの比率は約 7%である。

綿花加工を推進するため、2020 年までに繊維工業企業の振興に向けて 9 億 2,000 万ドルの投資が計画されている。特に、垂直統合型繊維コンビナートの新設、既存工場の増強を予定している。同プログラムは、合わせて約 100 の企業に及ぶ。これによって既存の設備能力を 2 倍超に引き上げることが可能になる。2010 年から 2014 年までウズベキスタンではすでに 100 を上回る繊維工業企業が新たに操業を開始し、それらの輸出ポテンシャルは 6 億 7,000 万ドルに達している。繊維産業の 2014 年の輸出は 10 億ドルを上回った（1994 年は総額 800 万ドル）。

そのほか、2017 年にはウズベキスタン-韓国繊維テーマパークを開設することになっており、繊維工業・軽工業の専門家の訓練が行われる。テーマパークではデザイングループを立ち上げる予定であり、このグループは繊維企業と密接に連絡を取りながら活動し、新製品やデザインアイデアを開発して生産に導入することになっている。テクノパークは、材料学、染色・仕上げ工程の分野で研究を進めることになっている。同プロジェクトに必要な資金は、韓国政府開発援助の枠内で同国の政府資金によって調達される予定である。